



編集・発行

2007 年 8 月号

No.386

カトリック幟町教会（宣教企画部 広報係）

〒730-0016

広島市中区幟町 4 番 42 号

TEL (082)221-0621

FAX (082)221-8486

<http://www.nobori-cho-catholic.com>

共同宣教司牧チーム

モデラートル：

パンガンスベルグ・ギルベルト神父

チーム司祭：レクダク・ゲラドウス神父

(=ジェリー神父)

F・ボーン神父との出会い、思い出

神父との出会いは、幟町カトリック教会の定期演奏会がきっかけです。それは、私が廿日市地御前の「聖ミカエルの家」のアントニオ・ド・シャンジー神父（長井一誠）が、この教会を紹介したことに始まります。また私がパイプオルガンの所在を聞いたことにもあります。

ところで私がなぜ、カトリックに足を踏み入れたか、なぜパイプオルガンに興味を持ったかと申しますと、19歳の時けがで入院、そして退院後、一時は仕事復帰はしたものの体調不良の為、やむなく退職、自宅療養となりました。そんななかラジオから流れてくる番組に耳を傾けていたとき、「心のともしび」を耳にし、その時語った神父の話の中に、大きな町には必ずパイプオルガンがあると聞きまして、小学生時代にお会いした神父を尋ねたのが大きなきっかけとなったのです。

そして幟町教会において木村神父より要理教育が通信教育のかたちで始まり、やがて神父の移動、次の肥塚神父に代わり、要理教育は再出発となった。勉強中パイプオルガンの音色はすれど、演奏会の様子が見えない、そこで神父に聞いたところ、第1日曜日の午後4時からあると聞かされた。そして時間の許すかぎり要理教育後、演奏会をきいて帰るようになった。その後肥塚神父より演奏会の受付をたのまれ、F・ボーン神父に私を紹介された。これがF・ボーン神父と出会いであり付き合いの始まりである。

そもそこの演奏会の始まりは、幟町カ

トリック教会の信徒より声があがり、当時の主任司祭中山助人神父より正式に要請があった。F・ボーン神父はさっそく神父館へ帰り、ゴーセンス神父（エリザベト音楽大学学長）に相談したところ、小教区を大切にしていた同神父は大いに喜びF・ボーン神父にその任を委ねた。このパイプオルガン定期演奏会は1969年6月1日午後4時第1回開催の運びとなったのである。

開催当初はオルガン音楽のみで、信徒から声が上がったにもかかわらず、入場者も少なく、いつもグチをもらしておられた。この演奏会のありかたについて少しでもお役に立ちたいと意見を述べても、ガンとして聞き入れなかったのも事実である。しかし90回、100回と回数を重ねるごとに、市内各方面から演奏会への出場要望があり、演奏会もオルガン音楽に留まらず多種多様に変化をみせ、今現在の演奏会スタイルを築くに至った。その回数400回を数えるに至った。

2001年4月半ば、自らの体調不良にもかかわらず、演奏会の為の原稿、日曜日のミサの準備もしなくてはと無理を承知のうえ関西（京都）へ2回も往復するなど必死に頑張っておられた。その後ろ姿は私の限にも非常に痛々しく写っていた

2001年5月6日午後4時からの定期演奏会を終え、6時からのミサの伴奏をする姿を見たのが最後である。2001年7月23日神のもとに旅立ち帰らぬ人となる。

聖歌隊 K.K

パイプオルガン定期演奏会が400回を迎えます。記念演奏会の案内は4ページにありますので、ご来場ください。



聖パウロ書院編 ①

聖堂前の書店で、私たちや聖堂を訪れる多くの方を温かく迎えてくれるシスターたちの横顔を紹介します。



お名前 シスター やながわ 柳川 すずこ 鈴子

生年月日 1931年2月2日

霊名・受洗年 テレジア 1949年

幟町教会のチースリク神父様より受洗

生い立ち、家庭環境

家庭は熱心な仏教徒で朝晩仏壇の前でお経を唱えていました。家族と一緒に私も仏様の前で祈っていました。

修道者を目指すきっかけ

戦後の焼け野原の中に十字架をみつけ、幟町教会を訪ねたことがあります。また、音楽会で知人に誘われ再び幟町教会を訪ね、通うことになりました。広島的女学校を卒業し、大手町の会社に勤めていました。洗礼名を決めるのに聖人伝を読んでテレジア



のことを知り、修道女の生活のすばらしさに驚き、母の反対を押し切って、1952年2月17日に聖パウロ女子修道会に入会しました。修道女のことを本を通じて知ったので、書籍出版の宣教活動をしている修道会を選びました。

「生きがい」を感じる時

幟町教会に祈りに来られる未信者さんに「神様があなたを愛して、いつも見守ってくださいよ」と声をかけると涙を流される人が多くいらっしゃいます。教会の入り口にある聖パウロ書院での人との出会いは生きがいです。

他の小教区との違い

私の所属している観音町教会は家庭的です。幟町教会は観光で訪れる一般の方も来られ、すべての人に門戸が開かれている、すばらしい宣教の場です。

将来

幟町教会の入り口にあり、一般の方と教会の接点にもなる場として、聖パウロ書院の継続のため働く協力者が見つかることを願っています。

被爆証言紹介(3・終)

前月に引き続き、Hさんの被爆体験を紹介します。

これは、昨年 2 月に第 12 回カトリック日韓学生交流会で話された内容をまとめたものを紹介しています。

軍隊が、取り壊した家の跡にさつまいもを植えていたので、生き残った人たちは、爆撃を受けたのにツルを伸ばしていたサツマイモのツルを毎日食べていました。

しかし、数週間経った頃、恐ろしいことが起こったのです。傷を受けずに元気そうにしていた人たちが、突然鼻血を出し、下痢をし、髪の毛が抜けて死んでしまうのです。これは放射能による原子病のためでした。原爆は広島を破壊しただけでなく、放射能をまき散らしていたのです。私の友人の子どもさんも原爆症による白血病に罹りました。苦しみのため、夜中 5 分と寝かせてくれないので、看病に疲れたお母さんが「少しは寝かせてよ」と思わず叱ったら、男の子は泣きながら「病気になったのはボクのせいじゃないんだよ。元の体にしてよ。ボクはもっと生きたかったよ」と叫び、6 歳で亡くなりました。感じ易い少女時代に被爆して顔に火傷を負い、悲しみの日をすごされていた方がたがいました。当時、原爆乙女と言われていた方の一人が、「ほほえみよ、かえれ」という詩を作りました。その詩は「つめたき運命（さだめ） 身に負うて さみしく生きる 乙女ごのほほより消えし ほほえみよ ふたたび いつのひにかえる」 この方たちは現在、身をもって証言したり、核廃絶を訴えたり、平和

の使徒としてがんばっておられます。

私は 4 年後に洗礼の恵みを受け、亡くなった人のため、また平和を祈ることができ、やっと心に安らぎが与えられたのです。そしてこの日、一発の爆弾によって死んでいった人びとに代わって、広島の叫びを世界の人びとに伝えていかなければと感じたのです。

現在世界で保有されている核兵器は、広島原爆の 100 万発以上の破壊力とされています。核は人類を滅ぼしてしまうことを、被爆者の立場から広島地から伝えなければならぬのです。8 月 6 日、ここ何が起こったのか、人類は何をしてきたのか。再び戦争が起これば人類は滅亡してしまうのです。戦争は全てを破壊しますが平和はこわしたものを直します。友だち関係でも憎しみ、争いで信頼は壊れますが、自分の弱さを自覚して、祈り、助け合っていく時、平和が築かれるのではないのでしょうか。平和のために何ができるか一人ひとり考え、祈り続けていきたいと思います。最後に『原爆ゆるすまじ』の歌をうたって、私の話を終わります。

ふるさとの 町焼かれ
身寄りの骨 埋めし 焼け土に
今は 白い花 咲く
ああ、ゆるすまじ 原爆を
三たび ゆるすまじ 原爆を
われらの町に…世界の上に (終)

なお、この証言全文は

教区 HP <http://hiroshima.catholic.jp/>に
多言語で紹介されています。

新しい運営委員長・幹事長が決まりました。 皆様ご協力お願いします。

平素は幟町教会の皆様方のひと方ならぬご支援とご協力に心より深く感謝致しております。幹事会では、各組織からの提案を基に、運営委員会で審議する議案を図り検討し準備をしています。

『平和の使徒になろうー殉教者を思い自分の信仰を生きるー』を座右の銘として、ささやかで小さな幹事会でございますが、カトリック教会の持つグローバルな観点のなかで、キリストの平和に小さな奉仕の出来ますように、私達教会の霊的活動に聖霊の温かなお恵みのありますように、祈り願っています。 幟町教会幹事長 S.K



第400回記念 椎名雄一郎リサイタル

日 時 10月7日(日) 16:00 開演
場 所 世界平和記念聖堂
入場料 無料

【曲目】

ティエルス・アン・タイユ「教区のミサ」より (F.クーブラン)
トッカータとフーガ ヘ長調 BWV 540 (J.S.バッハ)
ソナタ第6番 (F.メンデルスゾーン) ほか

椎名雄一郎プロフィール

- ・ 東京芸術大学卒業
 - ・ 同大学院音楽研究科修士課程修了
 - ・ 第1回ダラス国際オルガンコンクール第2位
 - ・ 第12回ライプツィヒ・バッハ国際コンクール第3位
 - ・ 2002年 NDR(北ドイツ放送局)音楽賞国際オルガンコンクール優勝
 - ・ ウィーン国立音楽大学に留学し、満場一致の最優秀の成績で卒業
 - ・ 現在、活水女子大学音楽学部講師、東京芸術大学非常勤講師。
- 日本キリスト教団原宿教会オルガニスト

